



## 平成26年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月12日

上場会社名 フィンテック グローバル株式会社  
コード番号 8789 URL <http://www.fgi.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 玉井 信光  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 経営管理部長 (氏名) 鷲本 晴吾

TEL 03-5733-2121

四半期報告書提出予定日 平成26年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年9月期第1四半期の連結業績(平成25年10月1日～平成25年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年9月期第1四半期	282	16.0	△195	—	△76	—	△82	—
25年9月期第1四半期	243	△66.3	△249	—	△217	—	△148	—

(注) 包括利益 26年9月期第1四半期 △75百万円 (—%) 25年9月期第1四半期 △148百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年9月期第1四半期	△67.97	—
25年9月期第1四半期	△124.66	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年9月期第1四半期	4,691	2,591	54.3	2,105.34
25年9月期	4,770	2,716	56.4	2,222.87

(参考) 自己資本 26年9月期第1四半期 2,545百万円 25年9月期 2,688百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年9月期	—	0.00	—	50.00	50.00
26年9月期	—	—	—	—	—
26年9月期(予想)	—	0.00	—	0.50	0.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成26年9月期の配当金(予想)については、平成26年4月1日を効力発生日として普通株式1株を100株に分割する株式分割を考慮した額を記載しております。なお、当該株式分割を考慮しない場合の年間配当額は、50円00銭(第2四半期:0円00銭 期末:50円00銭)となります。

### 3. 平成26年9月期の連結業績予想(平成25年10月1日～平成26年9月30日)

平成26年2月7日付のプレスリリースの通り、当社は岡山建設株式会社の全株式を取得し、連結子会社とする予定であります。また、出資する投資事業組合からの投資回収等により、当連結会計年度において売上高及び営業利益に10.5億円を計上する見込みであります。この大型の投資回収については、平成25年11月14日付の決算短信で公表いたしました平成26年9月期の連結業績予想に織り込んでおりましたが、収益は保守的に見積もっており、結果として当初の想定を上回る成果となりました。これらによる連結業績予想への影響につきましては精査中であるため、現時点において連結業績予想は未定であり、判明次第、提示させていただくことといたします。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年9月期1Q	1,209,243 株	25年9月期	1,209,243 株
26年9月期1Q	— 株	25年9月期	— 株
26年9月期1Q	1,209,214 株	25年9月期1Q	1,191,843 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご参照下さい。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する情報	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府の経済政策および日銀の金融緩和政策による円高是正と株価上昇が進み、緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、海外景気の不透明さは、引続きわが国の景気を下押しするリスクとなっており、先行きは依然として不透明であります。

このような経済環境において当社グループは、企業を支援するブティック型投資銀行として、企業投資と投資銀行業務を中心に事業を展開し、不動産等のアセットマネジメント事業や地方自治体等への会計コンサルティング事業なども行いました。さらに、これらのノウハウを生かし、地域産業の振興の支援にも積極的に取り組み、複合的に企業の成長をサポートしております。

金融機関や事業法人等に向けた投資銀行業務は多岐に渡りました。地域金融機関から資本増強のアレンジメントを受託するほか、公会計事業で培った会計士ルート等により、事業法人に投資機会を提供する事業を推進し、地方を中心とする事業法人や会計士等とのネットワークを広げることとなりました。このほか、中心市街地活性化に寄与するサービス付高齢者向け住宅プロジェクトは、開発フェーズから運用フェーズに移行し、引続きアセットマネジメント業務を受託しております。

企業投資においては、当社及びPuuha International Oy（フィンランド）が50%ずつ資本を拠出し、フィンランドそして日本でも人気があるキャラクター「ムーミン」を主題とするテーマパークを日本に設立し運営していくための事業を目的とする(株)ムーミン物語を設立しました。なお、(株)ムーミン物語は、平成25年11月にムーミンの著作権を保有するOy Moomin Characters Ltd（フィンランド）のグローバルな専属的代理人であるBulls Presstjänst AB（スウェーデン）との間で、ムーミンを主題としたテーマパークに関する日本国内の独占的ライセンス契約を締結しております。(株)ムーミン物語は、テーマパーク設立のための候補地の選定等の準備を進めております。

また、当社はムーミン関連商品を取り扱いEU圏内向けにEコマース・サイトを開設しているAll Things Commerce Helsinki Oy（フィンランド）に出資しており（出資比率30%）、同社は日本でのEコマース業務のため、平成26年1月に日本法人として(株)All Things Commerce Tokyoを設立しております。

当第1四半期連結累計期間は、投資回収による収益はなかったものの、アレンジメント等の投資銀行業務の受託は前第1四半期に比べ大きく増加いたしました。この結果、売上高は282百万円（前年同期比16.0%増）となりました。利益面におきましては、営業損益は195百万円の営業損失（前年同期は249百万円の損失）となり、経常損益は為替差益119百万円の計上により76百万円の経常損失（前年同期は217百万円の損失）となりました。四半期純損益は、82百万円の四半期純損失（前年同期は148百万円の損失）となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。なお当社は、平成25年9月期第2四半期連結会計期間からセグメントを変更しており、前年同期との比較数値については、前年同期の数値を新たなセグメントに組み替えて表示しております。

#### ①投資銀行事業

投資銀行業務においては、投資機会を提供する事業を展開し収益に貢献するとともに、事業法人や会計士等のネットワークも広がりました。また、地域金融機関に対し地域の取引先等が出資するファンドによる資本増強策のアレンジメントを提案し、本業務を受託しております。

企業投資においては、ムーミンテーマパーク事業を目的とする(株)ムーミン物語を設立し、また、ムーミン関連商品を取扱いEU圏内向けにEコマース・サイトを開設しているAll Things Commerce Helsinki Oy（フィンランド）に出資しております。このほか、フィンテックアセットマネジメント(株)が組成するファンド（FGI戦略投資ファンド）を通じての企業投資が増加しております。

投資回収による売上はなかったものの、業務受託による手数料収入が増加した結果、投資銀行事業の売上高は116百万円（前年同期比320.8%増）、営業利益は61百万円（前年同期は7百万円の損失）となりました。

#### ②アセットマネジメント事業

フィンテックアセットマネジメント(株)は、経営支援業務の受託や、M&Aに係る財務アドバイザー業務受託により収益計上しました。平成24年8月からアセットマネジメント業務を受託してきたサービス付高齢者向け住宅プロジェクトは、竣工によりリファイナンスをして開発フェーズから運用フェーズに移行し、引続きアセットマネジメントを受託しております。なお、受託資産残高は企業投資等による残高は増加したものの、不動産アセットマネジメントにおいてエグジットがあったため、微減しました。

この結果、アセットマネジメント事業の売上高は56百万円（前年同期比13.4%増）、営業利益は17百万円（前年同期比275.8%増）となりました。

③その他投資先事業

(株)ベルスは、景気回復効果等により持ち家サービス部門が好調となりました。賃貸サービス部門は、顧客の社宅制度廃止の影響を受けたものの、これに伴う引越しニーズを吸収しました。また、従業員40万人規模の企業へ持家支援サービスの提供を開始しております。

この結果、同社単体の売上高は103百万円（前年同期比15.9%減）、営業損失は10百万円（前年同期は5百万円の利益）となりました。

Crane Reinsurance Limitedは、仲裁手続を継続しており、保険料及び保険金等による収益費用の計上はなく、弁護士費用等により支払手数料が前第1四半期比で19百万円増加しました。当第1四半期は売上計上にはいたらず（前年同期は売上計上なし）、営業損失は78百万円（前年同期は48百万円の損失）となりました。

これらの主な子会社及び他の子会社の経営成績により、その他投資先事業の売上高は104百万円（前年同期比15.8%減）、営業損失は88百万円（前年同期は42百万円の損失）となりました。

④公共財関連事業

当事業を行う(株)パブリック・マネジメント・コンサルティングは、前連結会計年度に公会計導入コンサルティング事業を中心とする会社になった結果、前連結会計年度は単体で黒字となりました。しかしながら、当第1四半期は協力会社との連携による公会計パッケージソフトの販売が伸び悩んだ結果、公共財関連事業の売上高は19百万円（前年同期比55.8%減）となり、営業損失は8百万円（前年同期は3百万円の損失）となりました。

なお、地方自治体では来年度予算に公共財の管理計画策定に関する予算が盛り込まれており、第3四半期以降に計画策定支援業務の拡大を企図しております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(総資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末より1.7%減少し、4,691百万円となりました。これは主として、現金及び預金が424百万円減少したものの、営業投資有価証券が263百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末より3.0%増加し、2,100百万円となりました。これは主として、買掛金が59百万円、短期借入金が40百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末より4.6%減少し、2,591百万円となりました。これは主として、四半期純損失の計上及び利益配当により利益剰余金が142百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成26年2月7日付プレスリリース「岡山建設株式会社の株式の取得に関するお知らせ」のとおり、当社は岡山建設株式会社の全株式を取得し、連結子会社とする予定であります。また、同日付プレスリリース「投資事業組合からの投資回収等に関するお知らせ」のとおり、出資する投資事業組合からの投資回収等により、当連結会計年度において売上高及び営業利益に10.5億円を計上する見込みであります。

「(1)連結経営成績に関する定性的情報」に記載の通り、当第1四半期においては投資銀行業務による業務受託は順調に推移しております。また、上記の大型の投資回収については、平成25年11月14日付の決算短信で公表いたしました平成26年9月期の連結業績予想に織り込んでおりましたが、収益は保守的に見積もっており、結果として当初の想定を上回る成果となりました。これらによる連結業績予想への影響につきましては精査中であるため、現時点において連結業績予想は未定であり、判明次第、提示させていただくことといたします。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

(4) 追加情報

（株式分割及び単元株制度の採用）

当社は、全国証券取引所が公表した「売買単位の集約に向けた行動計画」の趣旨に鑑み、平成25年11月22日開催の取締役会において、株式の分割及び単元株制度の採用を決議いたしました。平成26年4月1日を効力発生日として、当社株式1株につき100株の割合をもって分割し、1単元の株式の数を100株とする単元株制度を採用いたします。

なお、当該株式分割が前期首に行われたと仮定した場合の1株当たり情報は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額	1円25銭	0円68銭
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	—	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,644,879	1,220,249
売掛金	110,261	153,942
営業投資有価証券	1,617,268	1,880,705
繰延税金資産	6,113	8,604
営業貸付金	826,118	836,831
その他	143,464	158,075
貸倒引当金	△199,533	△203,200
流動資産合計	4,148,573	4,055,209
固定資産		
有形固定資産	130,167	125,859
無形固定資産		
のれん	195,111	184,261
その他	6,753	6,147
無形固定資産合計	201,864	190,409
投資その他の資産		
投資有価証券	97,135	126,602
その他	192,998	193,348
投資その他の資産合計	290,133	319,950
固定資産合計	622,164	636,220
資産合計	4,770,738	4,691,429

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	26,945	86,138
短期借入金	26,000	66,000
1年内償還予定の社債	16,000	16,000
未払法人税等	11,747	2,536
預り金	72,192	87,298
賞与引当金	24,376	16,653
その他	242,033	197,121
流動負債合計	419,295	471,748
固定負債		
社債	40,000	40,000
退職給付引当金	109,966	106,940
繰延税金負債	64,919	61,503
保険契約準備金	1,406,936	1,406,936
その他	13,384	13,156
固定負債合計	1,635,207	1,628,537
負債合計	2,054,502	2,100,286
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,312,517	2,312,517
資本剰余金	12,490	12,542
利益剰余金	363,446	220,796
自己株式	△92	△16
株主資本合計	2,688,361	2,545,839
新株予約権	2,050	2,226
少数株主持分	25,824	43,077
純資産合計	2,716,236	2,591,143
負債純資産合計	4,770,738	4,691,429

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
売上高	243,415	282,421
売上原価	34,942	69,219
売上総利益	208,472	213,201
販売費及び一般管理費	458,134	408,851
営業損失(△)	△249,662	△195,649
営業外収益		
受取利息	268	423
為替差益	28,845	119,445
その他	3,390	238
営業外収益合計	32,503	120,107
営業外費用		
支払利息	123	29
持分法による投資損失	—	532
社債利息	171	114
営業外費用合計	295	676
経常損失(△)	△217,453	△76,218
特別利益		
事業譲渡益	66,355	—
新株予約権戻入益	—	17
その他	1,707	—
特別利益合計	68,062	17
特別損失		
投資有価証券売却損	587	—
投資有価証券評価損	179	—
特別退職金	—	4,033
特別損失合計	767	4,033
税金等調整前四半期純損失(△)	△150,158	△80,234
法人税、住民税及び事業税	3,319	1,092
法人税等調整額	△5,556	△5,906
法人税等合計	△2,237	△4,813
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△147,921	△75,420
少数株主利益	651	6,767
四半期純損失(△)	△148,572	△82,188

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△147,921	△75,420
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△345	—
その他の包括利益合計	△345	—
四半期包括利益	△148,266	△75,420
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△148,917	△82,188
少数株主に係る四半期包括利益	651	6,767

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年10月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	投資銀行 事業	アセット マネジメント 事業	その他 投資先 事業	公共財関連 事業			
売上高							
外部顧客への 売上高	26,729	48,173	123,326	45,185	243,415	—	243,415
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	1,000	1,243	900	—	3,143	△3,143	—
計	27,729	49,416	124,226	45,185	246,558	△3,143	243,415
セグメント利益 又は損失(△)	△7,581	4,695	△42,149	△3,536	△48,572	△201,089	△249,662

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△201,089千円には、セグメント間取引消去29,997千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△231,086千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。また、フィンテックグローバル(株)に対する経営指導料としてそれぞれ投資銀行事業11,000千円、アセットマネジメント事業9,000千円、その他投資先事業4,929千円、公共財関連事業4,500千円を負担しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成25年10月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	投資銀行 事業	アセット マネジメント 事業	その他 投資先 事業	公共財関連 事業			
売上高							
外部顧客への 売上高	116,684	42,002	103,758	19,976	282,421	—	282,421
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	14,060	900	—	14,960	△14,960	—
計	116,684	56,062	104,658	19,976	297,381	△14,960	282,421
セグメント利益 又は損失(△)	61,188	17,642	△88,529	△8,344	△18,043	△177,606	△195,649

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△177,606千円には、セグメント間取引消去34,731千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△210,305千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。また、フィンテックグローバル(株)に対する経営指導料としてそれぞれアセットマネジメント事業14,060千円、その他投資先事業5,880千円、公共財関連事業4,500千円を負担しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する情報

前第2四半期連結会計期間から、フィンテックグローバル証券㈱を連結の範囲から除外したことにより、取締役会への報告単位の見直しを行い、従来の「投資銀行事業」と「プリンシパルインベストメント事業」をあわせて「投資銀行事業」として表示しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成しており、前第1四半期連結累計期間の「1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」に記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。